

「地域で支えあう社会」で母子家庭を支える

塩津麻央

東京学芸大学附属国際中等教育学校

1. はじめに

去年、テレビをつけると、たまたま子供の貧困についての番組が放送されていた。そのとき初めて、日本の子供の20パーセント近くが相対的な貧困の状態で暮らしていることを知った。これらの3/4が母子家庭の子供だ。豊であるはずの日本で、平等な教育や生活のチャンスを経済的な要因により失っている人々が身近にいることを、私は信じられなかった。そこで私は、自分で少しでもこの問題を改善したく、母子家庭の母親の雇用形態についての調査を始めた。ここでは、地域の母子家庭の貧困を減少するために、母親のあるべき雇用形態とその実現の方法を提案する。また、これにおいて私が開催した活動も紹介する。

2. 調査

先行研究とデータの調査、分析

母子家庭の母親の雇用形態の問題点は、非正規労働者が多いことだと考えられる。よって、私は**正規労働をどのように増やすか**という課題を設定した。

まず、先行研究から、母子家庭の母親に正規労働者が少ない原因は以下だと分かった：

- ① **高年齢による正規就職の困難** → 4割強の女性が出産を機に正規労働を退職する。よって、ひとり親になってから再就職する必要がある、再就職時に比較的高年齢であるため、非正規労働を選ばなければならない状況におかれる。
- ② **企業側の要因** → 女性は出産や介護で企業を退職する確率が高いため、男性に比べ正社員として雇用されにくい。
- ③ **育児との両立の困難** → 育児をしなければならないため、時間の調整がより柔軟である非正規労働を選ぶ人が多い。



これらから、次のことを考えた：これらの原因を解消して母子家庭の母親の正規労働率を増やすには**育児支援を改善させ、母親が出産後も継続的に正規労働者として働き続ける**ことを促進することが有効である。

育児支援の改善方法：

育児施設の改善方法を考えるにあたってまず、多くの母親が育児施設を利用していないそもそもの原因を調査した。原因は二つある：育児施設の不足と、育児施設の高費用だ。

よって、育児支援の改善方法は、この二つの要因を解消することである → **低費用で利用できる育児施設の数の増加**が有効であると考えられる。

これを実社会で実現するための当然の方法は政府が育児への公的支出を増加し、国が低費用の育児施設を設立することだ。しかしこの方法の現実性は低く、政府がこれに同意しても実現するには時間がかかる。

そこで、私は香港に行く機会があり「香港ひとり親協会」について学んだ。この組織は地域の住民により構成されており、地域の子供たちのために低費用で利用できる育児施設を運営している。このコンセプトから、私は「**地域で支えあう社会**」の実現が日本でも通用する育児支援の手段なのではないか、と考えた。

これらから、母子家庭の母親の継続的な正規労働を促進させるために、地域社会として育児を支えることを提案する。「育児施設」としての支援のみではなく、子供食堂や無料塾など、ボランティアの地域住民による無料で利用できる子供支援活動の増加を提案する。いままでは子どもの成長や学力向上に焦点が当てられてきたこれらの活動であるが、さらに数を増加することで母親の継続的な正規労働を促進する力を持つのではないだろうか。また、日本は少子高齢化社会であるからこそ、少ない人数の子供を地域住民が支援することは可能である。学生、大人、と年齢を問わず、地域住民が全体としてこのようなボランティアの子供支援活動を支えていくことが重要である。

3. 活動一 勉強カフェ

3. 1 勉強カフェとは

「地域で支えあう社会」を目指し、私は去年の11月に「勉強カフェ」を地域の児童館で開催し、現在も積極的に、定期的に（二週間に一回）活動をしている。「勉強カフェ」とは、ボランティアの高校生が地域の小中学生の勉強や宿題をサポートする企画である。だれでもが気軽に参

加できるような環境を重視し、利用者制限は学年以外全くなく、門戸を広く開けている。下が、勉強カフェの紹介・広報のために作り使用しているパンフレットである。



**べんきょう
勉強
カフェ**

**勉強や宿題をもっておいで～
現役高校生が全力
でサポートします!**

勉強カフェとは:
勉強や宿題の分からないところがあるときに、
誰でもが気軽に無料で使える
「勉強サポートの場」を作りたい。
そういう思いから、私たち高校生は勉強カフェを
始めました。いつもみんな楽しく、かつ真面目に
勉強をしています。

私たち高校生について:
勉強カフェは、高校生数人で運営しています。
ひとりひとりのメンバーが、
「地域の小中学生の役に少しでもたい」
「勉強を教えるのが楽しい」
「支え合いの社会を実現したい」
という思いを持ち、勉強カフェに参加しています。

科目はなんでもカモン

**休み時間には、キャンディーとミルクティー
を用意してるよ!**

高校生は、海外帰国子で英検1級保持

気軽に寄ってみてね!

2 3

3. 2 活動実績

現在十数名の小中学生利用者がいる。小学2年生から中学3年生までの幅広い学年の参加者で、科目も英語・算数・国語・社会、などと幅が広い。運営側の高校生の人数は、合計5名いる。

上の写真で分かるよう、みんなが集中し、勉強に取り組んでいる。生徒からのたくさんの質問を受け、また、「これだったら勉強も楽しい」と生徒が言ってくれる、生徒と高校生が楽しく関わりあうことのできるオープンな環境を勉強カフェで作ることができた。また、他に地域で子供支援活動をしている「おにぎりカフェ」というボランティア団体との協働活動もしている。

「おにぎりカフェ」は、子供たちに無料のおにぎりを配る企画である。私たち「勉強カフェ」の高校生がおにぎりカフェで英語の紙芝居を行い、ときには「おにぎりカフェ」の運営者に「勉強カフェ」のお手伝いに加わっていただいている。このように、「おにぎりカフェ」と協働活動をする事で、より活動を発展させ地域の子供たちに貢献することができる。

【高校生による小中学生のための第二回勉強カフェを開催しました！】

11月18日（土曜日）に、現役高校生が小中学生の勉強をサポートする、第二回勉強カフェを行いました。当日は小学1年生から3年生が9名参加し、持参した学校や塾での宿題などを高校生講師3名と一緒に楽しく勉強しました。この日は、下品宮元工芸センターで行われている「おにぎりカフェ」の西原カフェ長にも参加していただき、暖かく見守っていただきました！

今後も毎月2回勉強カフェを行う予定です。気軽にご参加ください！どの科目でもかまいません。（海外経験が長く、英検1級保持の高校生が多いため、英語も行っていきます。小中学生で英検に挑戦したい方はぜひご参加ください！）

●今後の予定

12月16日（土曜日）

1月13日（土曜日）、27日（土曜日）

午後3時から4時30分

また、勉強カフェの生徒を集めるために市のフェイスブックへの活動報告の投稿（左）や、地域の小中学校に配られる児童館のお便りでの勉強カフェの広報を行っている。

今の課題は「勉強カフェ」のような支援を必要としている、より多くの地域の小中学生に「勉強カフェ」のを知っていただき、利用者を増加することだ。このために現在、JCOM による地域の活動を紹介するテレビ番組の取材を JCOM と相談している。

3. 3. このような活動を増加させるには

「支えあいの社会」で母子家庭を支えるには「勉強カフェ」のような、地域のボランティアによる子供支援活動の数を増加しなければならない。このために必要なことは、子供の貧困問題の意識を上げ、その問題を自分たちで解決していくという姿勢を地域全体が持つことだ。このために、私たち「勉強カフェ」の高校生や「おにぎりカフェ」など、活動を行っている人々が、その活動について地域社会に発信していくことが重要である。「勉強カフェ」の発信は、今後もどんどん行っていこうと思う。このような活動を増やし「地域で支えあう社会」を作れば、母子家庭の貧困の減少に一步近づくのではないだろうか。

4. 参考文献

周燕飛.母子世帯の母親はなぜ正社員就業を希望しないのか.JILPT Discussion Paper.Series 10-07.p23-24

中村洋雄ら. (2015).母子世帯の慢性的貧困についての考察. ISFJ2015. p18

永井保男.子供の貧困・その背景に関する人口学的考察.中央大学経済研究所年報.第 48 号.p69-98

ひとり親家庭等の現状について.厚生労働省.< <http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000083324.pdf> >. 2017/7/28 参照